

始業式で梶原しげる審議委員が講演

埼玉県入間郡毛呂山町の埼玉平成高校で

日本語が好きだから



フリーアナウンサーとして各方面で活躍しており、東京成徳大学客員教授でもある日本語検定委員会審議委員の梶原しげるさんが1月8日、埼玉県入間郡毛呂山町の埼玉平成高校（山口徹也理事長・校長）で、言葉の教育の特別講演を行いました。

埼玉平成高校では、「埼玉平成は言葉に強い生徒を育てます」という方針のもと、学校では日々の指導の中に「言葉の時間」を設け日本語検定に全員で取り組む学習を行っています。この講演会は第三学期始業式の後に開催され、会場の体育館には全校生徒764人が集まり、梶原さんの話に熱心に耳を傾けていました。

演題は「あなたの日本語大丈夫ですか？ - ひっかかる日本語 - 」。梶原さんは「言葉にひっかかるということは、言葉に感性を鋭く持って、構えて、日常を送る」とことと語り、テレビ番組を例に取り上げながら「言葉はどうやって人と人との関係を作るか」から話を始め、著書「ひっかかる日本語」を題材に約60分講演をしました。

「のびる」にもいろいろな「のびる」があります。「髪がのびた、記録がのびた、ラーメンがのびた、一撃をくらいがのびた」の使い分けなど具体的な問題を出し、生徒に手を挙げてもらったり、マイクを向けたりしながら講演が行われました。

また、日本語取得のキーワードとして、「ひっかかることから、始めよう」と語り、「ひっかかることはとても大事で、ひっかかるは違和感、日頃の日本語に敏感になることが大切です」と話しました。具体例として、生まれて初めて入ったコンビニのトイレで「いつもきれいにつかっていたいただき、ありがとうございます」に違和感を持ちませんかと生徒に語りかけ、「初めて入った」のに、「いつも」はおかしいと多くの生徒がうなずいていました。

講演の最後に次回の日本語検定が6月14日・15日に行われることが紹介され、梶原さんが全校生徒と一緒に「目指せ、三級！」と三回唱和し、「THANK YOU」と会を締めくくりました。

